

2021年7月6日
一般社団法人 Jミルク

日本人の食生活とSDGs との関わり解説 ファクトブック「栄養とSDGsと牛乳・乳製品」発行

Jミルクは、栄養改善などの取り組みとSDGs（持続可能な開発目標）との密接な関わりや、その中での牛乳・乳製品の位置付けなどについて解説したファクトブック「栄養とSDGsと牛乳・乳製品」をまとめました。

近年、食料の生産や消費がSDGs、とりわけ環境に与える負荷という観点からクローズアップされることが増えてきました。今年9月に米国ニューヨークで開かれる「国連食料システムサミット2021」でも、こうしたことが主要テーマになる見通しです。

一方、改めて「栄養」の観点からSDGsを考えると、「栄養」はSDGsの理念に最も応えることができる事項といえるかもしれません。栄養不良が飢餓、貧困、保健、医療、さらに福祉に悪影響を与えることはもちろん、これら以外にも教育、労働、経済、ジェンダー、気候変動、さらに環境など多様な領域に関係しているためです。

ファクトブックでは、

▽日本で、主に戦後の栄養教育や栄養指導といった取り組みが世界で例を見ないほどの成果を挙げ、低栄養の克服の一方で、過剰栄養の抑制などにも大きな役割を果たしてきたこと

▽その中で牛乳・乳製品が、若年女性や高齢者の低栄養にも、中高年の過剰栄養にも利益をもたらす食品として、改めて注目されていること

▽現在の日本人の食生活が、栄養面から見ても環境面から見ても、主要国中で優れていること

などを取り上げています。



中でも、3点目については、国ごとの食事での1人当たり温室効果ガス排出量などを比較したグラフなども掲載しています。

ファクトブックの概要は下記の通りです。

記

1. 名称

ファクトブック「栄養とSDGsと牛乳・乳製品」

2. 主な内容

Part 1 日本の栄養学の変遷とSDGsが提唱されるまで

Part 2 SDGsへの取り組みと栄養

Part 3 COVID-19の流行からの気づき 感染症と栄養

Part 4 栄養からみたSDGsにおける牛乳・乳製品の役割

3. 体裁

18ページ、カラー

4. 監修者

神奈川県立保健福祉大学学長・日本栄養士会会長 中村 丁次 氏

※ファクトブックは、Jミルクホームページ（<https://www.j-milk.jp/report/study/h4ogb4000006tec.html#hdg8>）からダウンロードできます。

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

一般社団法人Jミルク

学術調査グループ

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 お茶の水ユニオンビル 5階

電話：03-5577-7494